

# 早田漁師塾

過疎・少子高齢化が進む尾鷲市早田町で、早田らしい文化や伝統、豊かな海を残そうと、平成21年に「ビジョン早田実行委員会」が結成されました。その中で、漁業者部会が中心となってスタートさせたのが「早田漁師塾」。平成29年までの間に市・県外から9人の塾生を受け入れ、3名が市内で漁業に従事しています。



小型定置網漁※

### お問い合わせ

「早田漁師塾」  
尾鷲市早田町6-3  
(三重外湾漁業協同組合  
紀州支所 尾鷲事業所早田内)  
TEL 0597-29-2039

今回、お話を伺ったのは、「早田漁師塾」を運営する「三重外湾漁業協同組合 紀州支所 尾鷲事業所早田」主任の湯浅 光太さん。昨年秋季に実施された同塾で学ぶ、7期生の江川正樹さんと小池 満さんが、ロープワークを受講する様子も拝見しました。

「早田漁師塾は、市外や県外にも門戸を開いていると聞きました。」

湯浅：早田町は、黒潮が流れる豊かな海を背景に、大型定置網漁(大敷)・小型定置網漁(小網)・イセエビ刺し網漁などが盛んに行われてきたところです。大型定置網漁では、ブリをはじめとし

て、サバ・アジなどが獲れます。しかし、過疎・高齢化が続く今のままでは、早田らしい伝統ある漁業を維持・継続することが困難になるのは確実です。そこで、漁業に興味のある若者を市外や県外からも募集して、担い手になってもらおうという想いで始めたのです。

「塾生たちは、1か月かけて伝統漁法を学ぶわけですね。」  
湯浅：伝統漁法を実際の現場で体験するのはもちろんですが、たとえば、漁網の修繕方法や魚のさばき方、漁業にまつわる法律や資源管理についてなど、基礎知識全般が身に付くようになっていきます。さらに、早田町ならではの風習・習慣なども学び取ってもらい、地

域に溶け込んでもらうことを目的にしています。

「その想いが実って、現在、3人が市内に定住していますね。」

湯浅：募集する時点で、生涯、三重県内で漁師として生きる覚悟があること、地域行事に参加できることなどを条件にしていますから、本気の人だけが来ます。3人のうち、1期生の吉田 元治さんと3期生の浦和弘さんは、新人塾生のロープワークの指導も担当しています。2人は、新人たちが何に戸惑うかが理解できているので、指導を受ける方も安心できるようです。

「なるほど…。ところで、漁師塾は他の地域でも実施されているのですか。」

を拝見すると、皆さん、和気あいあいとしながらも、何度も何度も結び方を確認しながら練習しています。複雑なロープワークを揺れる船の上で瞬時に行えるようになるまで、反復練習は欠かせないと指導する、吉田さんや浦さんの言葉に、身が引き締まる思いがしました。

勢市出身の小池さんは、先輩漁師について「船に乗ると、急に変わるんです。カッコいいなあ」と語ってくれました。日に焼けて、少したくましくなった2人と先輩漁師の姿は、早田町の海のように輝いて見えました。

インタビュアー…中村真由美

京都府出身の江川さんは、サバやトビウオに交じってサメが網に掛かった時の感動などについて話してくれ、伊

取材終了後、江川 正樹さんと小池 満さんは、「株式会社 早田大敷」で働き始めました。



三重県の漁業などについて学ぶ塾生※



大型定置網漁※



ロープワークを学ぶ塾生たち



後列向かって左から湯浅 光太さん、吉田 元治さん、浦和弘さん。前列は7期生の江川 正樹さん(左側)と小池 満さん(右側)。

「ありがとうございます。」  
お話の後、ロープワークを学ぶ様子

湯浅：早田町と同時期に「畔志賀漁師塾」(志摩市の畔名・志島・甲賀合同の取り組み)もスタートしています。三重県全体の漁業者(正組合員数)は、平成27年現在で約5800人ですが、10年後には約3000人にまで減少することが考えられます。そのため、漁師塾のような取り組みが広がっていけば、と考えています。

※印の写真は取材先から提供していただきました